

探究すべき課題	調査と評価・改善プロセスのデザイン		備考
<p>1 学校評価・教育改善のための研究(IR)の推進</p> <p>A 各機関の教育評価への取組(自己点検・自己評価=大半は既に行われているが?)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育理念や人材養成目的・目標の設定 2 教育活動の実施と授業評価 3 FD・SDと教育改善 4 学外ステークホルダーとの対話 5 組織のガバナンス <p>B 各機関の教育評価への取組(学校相互評価=新しい質保証の課題)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 卒業後のキャリアの探究 2 キャリアと学校の学習プロセスとの関連 ↳全国的な卒業生調査への参加 	<p>各機関のIRとしての分析・評価・改善のステップ</p> <p>卒業生は、学習成果でもあり、学習プロセスの評価者でもあり、学校の応援団でもあり、将来的潜在的な学習需要でもある。</p> <p>卒業生調査の実施、学生の特性による違いの抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> ↳ 全国的な動向との比較 ↳ 他校との比較(ベンチマーキング) ↳ 学校間での相互評価 	<p>調査項目</p> <p>①機関の総合評価・効用認識、②教育活動の各要素の充実度と評価、③入試や入学時の選択</p>	<p>個人情報の保護</p> <p>各機関の到達目標と教育の特質理解</p> <p>相互評価のためのグループ化</p>
<p>2 初期キャリア形成と各機関の教育効果についての解明</p> <p>A 卒業生のキャリア形成、コンピテンシー、社会的自立=学習成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高等教育とコンピテンシー形成 2 キャリア探索と社会的自立、後期青年期 <p>B 短期高等教育と社会的評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 短期高等教育と卒業生への社会・労働市場評価 2 都市-地方の分業と分断化 <p>C 高等教育経験の社会的効用の時間軸</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高等教育と労働市場経験による能力蓄積 2 修了者の労働市場経験 3 高等教育の効用の逓減や逓増 	<p>調査実施とサンプル</p> <p>適切な専門分野構成と分野別の検討</p> <p>適切な機関分布(地域、社会的評価)</p> <p>複数卒業年次を調査(対象年次は協議事項)</p> <p>2012年調査 2012年卒=卒業後0.5年=21歳(2年課程), 2008年卒=卒業後4.5年=25歳, 2004年卒=卒業後8.5年=29歳</p> <p>将来的には、パネル調査(4年ごとの実施)について検討</p>	<p>調査項目</p> <p>①キャリア、獲得・活用するコンピテンシー、家族生活、②高等教育の学習・生活、③高校までの条件</p> <p>①職場と就業上の地位、②学習・学力、就職活動、③入学前の本人・家庭の状況</p>	<p>各機関による高等教育客観指標の追加</p> <p>世代、年齢段階、時代の違いを弁別すること</p> <p>項目の時系列的一貫性</p>
<p>3 自己点検と相互評価から教育改善(IR)</p> <p>A 高等教育メカニズムを理解した総合的な点検・評価活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入口-プロセス-学習成果-キャリアモデルによる機関別評価 2 学術モデルとの偏差とベンチマーキング <p>B 各機関の教育改善</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 点検活動から教育改善、教育理念強化 2 新たな学習需要、応援団としての卒業生 	<p>各機関の自己点検から相互評価、教育改善のステップ</p> <p>全体データの総合分析との「ずれ」にもとづく強み弱みの分析</p> <p>学校間の相互評価活動</p> <p>機関内でのIRにもとづくPDCAサイクルの確立</p> <p>ステークホルダーとしての卒業生、企業等との対話</p> <p>マーケティング戦略の確立</p>	<p>調査項目</p> <p>①リカレント学習への関心、②母校への関心や教育理念への共感、③同窓会への関与</p>	<p>データ利用の相互承認</p> <p>卒業生、企業とのフォーラム</p> <p>教育理念、到達目標、方法、統制の構築</p> <p>調査プロジェクトからのコンサルティング</p>